

評点基準等

事業評価の評点等は、次の通り定められている。

○カテゴリー1～7

各評価項目に属する標準項目について、実施が確認できたもの（満たしているもの）を○、実施が確認できないもの（満たしていないもの）を●で表し、それらを並べたものが評点である。

例 評価項目に属する標準項目が4つの場合

評点	評点基準
○○○○	標準項目をすべて満たしている状態
○○○●	標準項目を1つ満たしていない状態
○○●●	標準項目を2つ満たしていない状態
○●●●	標準項目を3つ満たしていない状態
●●●●	標準項目をすべて満たしていない状態

なお、標準項目を確認できた（満たしている）とすることができるのは、次のすべてを満たした場合である。

ア	事業者が当該事項を実施していること
イ	その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること
ウ	その根拠が示せること

○カテゴリー8

カテゴリー8は、評価項目ごとに、事業者の取り組み状況及び活動成果に応じて、次のいずれかの評価を記してある。

1	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
2	改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果として現れていない
3	改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1（1-1）	
	認定こども園として目指していることの実現に向けて一丸となっている	
評価項目1		
	園が目指していること（教育・保育理念、基本方針）を明確化・周知している	評点（0000）
評価	標準項目	
あり	園が目指していること（理念・基本方針など）を明示している	
あり	園が目指していること（理念・基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	
あり	園が目指していること（理念・基本方針など）について、保護者の理解が深まるような取り組みを行っている	
あり	重要な意思決定や判断に迷ったときに、園が目指していること（理念・基本方針など）を思い起こすことができる取り組みを行っている（会議中に確認できるなど）	
評価項目2		
	管理者（認定こども園長・保育園長・幼稚園長）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、こども園をリードしている	評点（00）
評価	標準項目	
あり	管理者は、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	管理者は、自らの役割と責任に基づいて行動している	
評価項目3		
	重要な案件について、管理者は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	評点（000）
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	
あり	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者などに対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
	カテゴリー1の講評	
	保護者や地域による園への理解が深まるようにホームページにより情報発信をしている	
	ホームページは月に一度、委託業者による情報更新を行っているほか、責任者を中心にホームページ内の「掲示板」や「お知らせ」を随時更新作業を行っている。これにより、地域子育て支援の情報を発信し、事業開催日に育児サークル「いちご組」等の参加を得ている。また、ホームページには保護者専用のページを設けて情報発信することで、より詳しく園での取り組みや子どもたちの様子を伝えている。保護者が確認したいときにいつでもどこでも情報を入手できるツールとして、ホームページを活用して情報発信をしている。	
	運営方針や事業計画等について、管理者の意思決定内容を関係者に周知している	
	制度改正を反映させた事業内容を決定し、運営を進めていくため、職員が制度改正の内容や園の現状、課題等を理解して業務に取り組めるように周知を始めている。また、今後、制度改正と園の運営方針を保護者に対して懇談会で説明をしていく予定となっている。懇談会は定期的なものほか、案件によっては臨時に開催することもある。必要に応じて同じ内容で複数回設定し、働いている保護者でも参加できるように設定している。	
	施設長や責任者のリーダーシップにより職員のモチベーション向上につながっている	
	園では管理職間でインターネットのツールを使って情報共有をしている。これにより外出等不在時でも園の様子を知ることができ、意思決定が必要な場面でも責任者が状況を把握した上での指示・アドバイスをタイムリーに行えることで、職員の安心感につながっている。また、保育の現場を施設長が見て回る時の職員への声かけや、施設長が保育日誌に励ましや褒めのコメントを入れることで、職員のモチベーション向上につながっている。	

カテゴリー2	
2	経営における社会的責任
サブカテゴリー1 (2-1)	
社会人・福祉サービス事業者・教育機関として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
評価項目1	
社会人・福祉サービス・幼児教育に従事する者として守るべき法（児童福祉法、学校教育法、消防法、学校保健法、労働基準法等）・規範・倫理などを周知している	評点 (〇〇)
評価	標準項目
あり	福祉サービス・幼児教育に従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している
あり	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる
評価項目2	
第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	評点 (〇〇)
評価	標準項目
あり	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
あり	透明性を高めるために、地域の人目にふれやすい方法（園便り・会報など）で地域社会に園に関する情報を開示している
サブカテゴリー2 (2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行なっている	
評価項目1	
園の機能や幼児教育・福祉の専門性をいかした取り組みがある	評点 (〇〇)
評価	標準項目
あり	園の機能や専門性は、子どもや保護者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)
あり	地域の人や関係機関を対象に、園の機能や専門性をいかした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている
評価項目2	
地域の関係機関との連携を図っている	評点 (〇〇)
評価	標準項目
あり	地域の関係機関のネットワーク（事業者連絡会など）に参画している
あり	地域ネットワーク内の共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
カテゴリー2の講評	
第三者評価の結果の情報公表や園庭開放等で、園の様子や取り組みを地域に公開している	
第三者評価を3年ごとに受審し、過去の結果を園のホームページで公開している。そのほか、園だよりや会報などを園の掲示板に貼り、地域の方にも公開している。また、園庭開放や子育て支援「いちご組」を行うことで、具体的な園の取り組みや様子を直接見ることができる機会を作っている。	
園の設備や絵本を在園児以外の家庭でも利用できるような取り組みがある	
こども園の設備を地域の資源として活用できるように、絵本の貸し出しや園庭開放を行っている。また、職員の専門性を活かした子育て支援では、「いちご組」の実施により未就学児と保護者の友達づくりや情報交換の場にもなっている。育児相談は希望があればいつでも可能だが、園庭開放等、園に来た時に気軽に子育て中の悩み事や困りごとを話すことができるため、悩みが大きくなる前に解決できている。	
他の幼児教育・福祉関係機関と連携し、情報共有を行っている	
北沢地域子育て支援ネットワーク会議に年3回参加し、他の公立・私立保育園や児童館、自治体等の関係機関と情報共有・交換を行っている。この活動では、2年前には子育てに関するマップを関係機関と協力し合って作成した。また、発達障害の幼児に関しては世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」と連携し、子どもを中心にどのように保育・教育していくかについて、園だけでなく関係機関の情報やアドバイスも取り入れる姿勢をもって情報交換や相談を行っている。	

3	カテゴリー3	
	保護者の意向や地域・事業環境の把握と活用及び中長期目標と計画	
	サブカテゴリー1 (3-1)	
	保護者の意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1	
	保護者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	評点 (〇〇)
	評価	標準項目
	あり	苦情解決制度を利用できることや園以外の相談先（第三者委員）を遠慮なく利用できる仕組みについて保護者に伝えている
	あり	保護者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
	評価項目2	
	保護者の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	評点 (〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	保護者アンケートなど、園側からの働きかけにより保護者の意向を把握することに取り組んでいる
	あり	園が把握している保護者の意向を取りまとめ、保護者から見たサービスの現状・問題を把握している
	あり	保護者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
	評価項目3	
	地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	評点 (〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる
	あり	幼児教育・保育事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる
	あり	園としての今後のあり方の参考になるように、地域の幼児教育・保育や子育て支援に関するニーズや幼児教育・保育事業全体の動向を整理・分析している
	サブカテゴリー2 (3-2)	
	こども園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定している	
	評価項目1	
	外部環境、内部環境を踏まえて、こども園の中長期計画を作成している	評点 (〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	事業運営に必要な情報を収集・分析し、中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している
	あり	次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討している
	あり	重要な情報は主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている
	あり	運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている
	カテゴリー3の講評	
	保護者の提案を取り入れる体制があり、そのサービスが稼働している	
	保護者の要望や提案を職員会議や連絡会議で共有し、必要に応じて改善策を取る体制がある。例えば、園にある二つの入り口（幼稚園・保育園）の掲示板に貼り出している内容に差異があるとの保護者からの指摘を受け、幼稚園向けの内容も、保育園向けの内容も等しく掲示することで、双方の保護者に情報を伝えるようにした。また、小学校等での緊急連絡時にメールの一斉配信を園でも取り入れたら便利なのではないかとの提案を受けて、東日本大震災後の平成23年度に導入し緊急連絡や引取り訓練で使用する等、外出先でも保護者に伝達できる体制を整えた。	
	食育での取り組みに関し、他の園と情報交換を持つことで向上させる姿勢がある	
	園の基本方針の一つである「食育」に関し、施設長や栄養士を中心に園で工夫と実践をしている。食育に力を入れている保育園に連絡を取り、他の園での取り組みについて、今年度は施設長と栄養士が見学をすることができた。この取り組みは、研鑽を積むことも園の姿勢と、双方の園で工夫していく向上心が合致したことで、可能となったものと思われる。現在いくつかの園とも調整中で、今後も他の園の見学は継続し、情報交換をする方向である。	
	地域の情報やニーズを分析し、2歳児以下の受け入れを視野に入れた計画がある	
	地域の人口構成や動向等外部環境を分析し、今後の傾向として待機児童解消後は少子化傾向にあると分析しており、地域性を反映した中長期的な視野で0～2歳児の受け入れを検討している。また、地域ニーズに合わせた園庭開放での利用年齢制限の緩和等も始めた。さらに、羽根木地域におけるこども園としての教育カリキュラム確立のために月1回招いている外部アドバイザーも、現在の安定した園の様子に目的を果たしたと捉えている。地域性を反映した運営基盤が整ってきたことで、現在は異年齢の関わり等、幼児教育・保育面での充実に取り組んでいる。	

カテゴリ4	
4	安全管理
サブカテゴリ1 (4-1)	
子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
評価項目1	
子どもの安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる ※事故、感染症の発生時などの対応、防犯・防災等	
評点 (00000)	
評価	標準項目
あり	子どもの安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や施設内の役割分担を明示している
あり	発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
あり	再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、保護者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
あり	地震などの自然災害に対する防災対策を施すなど、施設・設備を安全で適切な状態にしている
あり	不審者、外部からの侵入に対する対策がとられている
あり	急な病気や感染症に対しての取組みの手順が明示されている
カテゴリ4の講評	
避難訓練を月1回実施し、子どもの安全のために訓練を重ねている	
職員は全員緊急時の役割分担が決まっており、避難訓練を月1回実施している。訓練時には通報訓練も行い、園は子どもたちの安全を第一に訓練に力を入れている。また、災害等を想定した保護者の引取り訓練も年1回実施し、その際には一斉メール配信をすることで、保護者が外出中であつたり勤務中であつてもメールで情報を得ることができ、訓練は確実に行っている。	
事例をヒヤリハットノートに記入することで気づきと意識付けを行っている	
事故発生時は事故報告書を作成し報告する。その際には、なぜ事故が起きたのか原因を探り、改善策をいつまでにとるかを明確にすることで、再発防止につなげている。また、事故には至らない軽微なケースに関しては、ヒヤリハットレポートを作成している。記載内容は、小さなけがで病院受診には至らないケースや運動会の後に杭を外したあとに残っていた釘など、職員が気づいたことを記録している。ノート記載と会議での情報共有が蓄積できており、園では今後、けがの発生時間帯や曜日等の傾向分析を行えば予防できる可能性を、今後のテーマとしている。	
不審者対応を複数行うことで子どもたちと職員の安全を図っている	
こども園は幼稚園と保育園の入り口が分かれており、特に保育園はお迎えの時間帯はある程度決まっているが、迎えに来る時間には幅があるため、不審者対策として入り口の電子錠と保護者用IDカードの所持といった対策をとっている。また、来訪者は台帳に記帳することで来訪の趣旨を確認している。	

職員と組織の能力向上

サブカテゴリ-1 (5-1)

こども園が目指していることを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

評価項目1

園にとって必要な人材構成にしている

評点 (000)

評価

標準項目

あり

園の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している

あり

園が必要とする人材を踏まえた採用を行っている

あり

適材適所の人員配置に取り組んでいる

評価項目2

職員の質の向上に取り組んでいる

評点 (00000)

評価

標準項目

あり

職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している

あり

職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成（研修）計画を策定している

あり

個人別の育成（研修）計画を踏まえ、OJTや研修を行っている

あり

職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している

あり

職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している

サブカテゴリ-2 (5-2)

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

評価項目1

職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点 (000)

評価

標準項目

あり

職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している

あり

職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる

あり

職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点 (0000)

評価

標準項目

あり

職員一人ひとりの取り組みを評価し、課題の発見や目標設定、研修や自己研鑽の計画に結びつけるなど、総合的な人材育成の視点を持った工夫を行っている

あり

就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる

あり

職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる

あり

福利厚生制度の充実に取り組んでいる

評価項目3		
円滑なコミュニケーションを図り、組織として質の向上に取り組んでいる		評点 (〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	定期的な職員会議などを通して、話し合い、評価・反省を行い、次の保育に活かす体制がある	
あり	自分の保育を他の職員に見てもらい、互いに検討しあう機会や仕組みをつくっている	
あり	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的に研究を行っている	
カテゴリー5の講評		
教育期間を設け、また、複数担任制をとることで、人材育成を行っている		
園では複数担任制をとっており、経験を積んだ職員と新任または経験の浅い職員でペアを組むことで、人材育成を行っている。施設長は職員一人ひとりの取り組みをチェック表で確認し、日常の施設見回り時や見かけたその場面において職員に声かけをすることでコミュニケーションを図っている。指導は日常的かつ継続的に複数の職員で行い、必要に応じて施設長が個人面談を行っている。複数担任制や施設長からの声かけでは、経験の浅い職員も気づきを得たり励みになったりしている様子である。		
ヒヤリハットノートへの記入を習慣づけ、リスクマネジメントの意識を向上させている		
管理職だけでなく職員一人ひとりの日頃の気づきが園の安全につながると、園ではヒヤリハットノートへの記入を習慣付けている。日常の忙しさの中で見落としてしまったり、気づいたことの記入を忘れてしまったりしないように、管理職が職員に対して意識付けを行っている。どこが危険でどこまでなら危険ではないのか、正常値なのか異常値なのかについて、気づきと判断、それを修正していくための記載内容は、職員会議や学年会議で取り上げて意見交換と水平展開を行っている。この積み重ねにより、職員の判断基準が統一されていくことを目指している。		
職員の提案に管理職が耳を傾け実現につなげ、職員のやる気を引き出している		
管理職は、業務以外にも職員との日常的な会話から職員の体調や様子、悩み等に対し早めに気づくことを心掛けており、職員も不満や疑問を溜めずに管理職と話ができることで、近年の職員の定着につながっている。また、職員が考えて提案してきたことに対しては、管理職も共感の言葉や肯定をすることにより職員のやる気を引き出している。例えば、すきま風対策等の提案を取り入れることから、職員も小さな工夫や提案でも持ちかけやすい環境となっている。		

	カテゴリー6	
6	サービス提供のプロセス項目	
No.	共通評価項目	
1	サブカテゴリー1	
	サービス情報の提供	
	評価項目1	
	保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点(000)
	評価	標準項目
	あり	保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	あり	園の情報を、行政や関係機関等に提供している
	あり	保護者の問合せや見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	サブカテゴリー1の講評	
	園の情報はホームページを活用して提供している	
	利用希望者に向けた情報提供は主にホームページを活用している。その中で保育理念、保育方針、入園案内、1日の園生活の流れなどを写真やイラストを交えて、見る人にわかりやすく伝える工夫をしている。園のホームページから過去の第三者評価結果を閲覧することも可能とし、透明性の確保に努めている。在園児の保護者には専用ページを設け、パスワードでアクセス制限のもと閲覧できる仕組みにしている。そのほか区のホームページにも情報提供している。	
	地域に向けてもホームページ上で情報を発信している	
	園では、地域に向けた子育て支援事業を実施しており、ホームページには在園児以外の子育て家庭が利用できる取り組みについても紹介している。0歳児から利用できる園庭開放、2歳児からの育児サークル・一時預かり、子育て相談など、必要な情報が得られるように発信している。特に育児サークル「いちご組」は製作・リズム遊び・体育遊びなどを親子で体験する講座で、数か月前にはホームページに掲載し、予約の受付を行っている。	
	問い合わせや見学は随時受け付けている	
	利用希望者向けに、見学や公開保育を実施している。キンダーコース、ナーサリーコース合同で年2回入園説明会を行っている。電話やメールでの問い合わせや見学にも、できる限り個別の状況に応じて対応している。	

2	サブカテゴリー2	
サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1		
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	
あり	サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	
あり	サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	
評価項目2		
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点 (〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	サービスの開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	
あり	利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している	
あり	サービス利用前の生活をふまえた支援をしている	
あり	サービスの終了時（就学を除く）には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている	
サブカテゴリー2の講評		
入園説明会で「しおり」を配布し、重要事項を説明している		
<p>キンダーコース、ナーサリーコースとも入園説明会で「入園のしおり」を配布し、園の概要、保育時間、給食、保育料、諸費用、入園に必要なものなど、園のルールや重要な事項について説明している。個別の事項については、4月開催のクラス懇談会でも説明し、保護者の同意を得るようにしている。</p>		
家庭環境、健康面など子どもの情報を収集している		
<p>入園にあたって、家庭から発育状況や家庭環境を記入して提出してもらい、子ども一人ひとりの状況を確認している。児童票や健康カードは園に保管し、3年間継続して使用して推移を把握している。健康面については、主任と栄養士と保護者の三者で面談を実施し、アレルギーや薬の対応を検討している。必要に応じて医師の指示書も得ている。</p>		
子どもの生活が継続するよう支援している		
<p>ナーサリーコースでは、入園後1週間程はならし保育の期間とし、保護者に早めに迎えに来てもらうなどストレス軽減を図っている。キンダーコースでは、4月中は半数ずつ交代で給食を食べて、徐々に慣れるように配慮し、子どもが環境の変化に対応できるように支援している。転園する場合は、保護者の了承を得て、指導要録を送って情報を伝達することもある。</p>		

3	サブカテゴリ-3	
計画の策定と着実な実行		
評価項目1		
こども園としての教育課程・保育計画は、理念・基本方針の基づき策定されている		評点 (0000)
評価	標準項目	
あり	教育課程もしくは保育計画の策定にあたっては、全職員がかかわっている	
あり	教育・保育の基本方針や地域の実態を踏まえて策定している	
あり	就労状況など保護者の実情を考慮して策定している	
あり	教育課程もしくは保育計画は入園時や年度当初、改定時に保護者に説明している	
評価項目2		
子どもの発達や状況に応じた指導計画を作成している		評点 (0000)
評価	標準項目	
あり	年齢ごとに指導計画を作成している	
あり	子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている	
あり	評価・改訂にあたっては、複数の職員が参画している	
あり	評価・改訂にあたっては、保護者の意向も反映している	
サブカテゴリ-3の講評		
教育課程・保育課程は職員、地域、保護者の意向のもと策定している		
全職員が参加し、保護者のアンケートなども考慮して、「教育課程・保育課程」を一本化して策定している。地域においては3歳児未満の待機児童が多く、一時保育や子育て支援事業の実施を課程の中に明記して取り組んでいる。運動会、発表会などの行事は土曜日開催するなど、ナーサリーコースの保護者に配慮して策定している。こうした園の基本理念、基本方針は入園時にも保護者に説明し、入園後は園便りなどで詳細を知らせている。		
子どもの姿に沿った指導計画を策定している		
年少、年中、年長と各学年ごとに、子どもの姿、基礎的事項、健康、人間関係、環境構成と配慮、言語・表現、家庭との連携、地域との交流の項目に沿って年間計画を策定している。昨年まで4期に分けていた期間を、今年度から学校と同様に3学期制として、各学期ごとに目標を立てて計画立案している。		

4		サブカテゴリー4	
個別状況に応じた計画策定・記録			
評価項目1			評点 (〇〇〇)
必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している			
評価	標準項目		
あり	子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
あり	子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
あり	アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2			評点 (〇〇〇〇〇)
必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している			
評価	標準項目		
あり	計画は子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている		
あり	計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている		
あり	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		
あり	計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している		
あり	障害の特性を考慮した個別の指導計画を作成している		
非該当	3歳未満児については、個別の計画を作成している ※ただし当該園は3～5歳児対象の園		
評価項目3			評点 (〇〇)
必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している			
評価	標準項目		
あり	子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載する仕組みがある		
あり	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		
評価項目4			評点 (〇〇)
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有している			
評価	標準項目		
あり	計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している		
あり	申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している		
サブカテゴリー4の講評			
子ども一人ひとりの発達状況を把握している			
子どもの状況は、入園前に生活や健康について、睡眠、排せつ、歯磨き、手洗い、食事、遊び、アレルギー、かかりやすい病気などの発達状況の情報を得ている。子どもの課題や保護者の要望は、入園前の面談や入園後の年2回の面談や懇談会、日々の保護者との交流から把握している。これらの情報は、学期ごと定期的に見直すこととしている。			
要支援児は個別に指導計画を作成している			
区の総合福祉センターで児童発達支援計画を作成している子どもについては、園でも個人目標と配慮・留意点を記載した個別の要支援児指導計画を立て、保育にあたっている。障害をもった子ども一人ひとりの特性に応じた対応をし、日々の状況を統合保育日誌に詳細に記述している。要支援児以外にも保育に配慮が必要なケースもあり、区の制度等につなぐように努めている。			
クラス日誌の記入のしかたを学び、子どもの成長を記録している			
子ども一人ひとりの情報は、子ども要録に3年分を記録し、成長の推移がわかるようになっている。日々の保育ではクラス日誌に日案、ねらい、活動の配慮・留意点を記録するほか、個人記録を残している。この個人記録は、①成長した点②気になる点③対応したことへの反応について担当職員の判断で記述することとしている。子どもの情報は朝礼や週会議、月1回の職員会議で話し合い、共有している。			

サービスの実施

評価項目1

子どもの発達を促すための保育を行っている

評点 (〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している
あり	子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている
あり	多様な表現活動や園外活動を計画している
あり	文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている
あり	障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している
あり	異年齢保育を効果的に取り入れている

サブカテゴリ-5-1の講評

子ども発信の遊びで培われる自立と自律

園の中では、一人ひとりの子どもがその日その時何をしようと考えて活動に取り組むことができる環境を整えている。保育室にはごっこ遊びのコーナーや製作の材料の準備などを行い、職員に見守られながら自分の遊びを選んでいる。園庭では子ども同士の遊びが展開されている。自分のやりたい遊びだからこそ、自分で考えることから始まり自立や自律の力が培われていっている。遊んでいる時の子どもの表情が生き生きとしているのが見てとれる。自分の遊びが見つけれない子どもには、職員が寄り添って遊びが見つかるように援助している。

集団の中での育み

特に支援が必要な子どもに対しては専任の職員を配置しており、その子どもの集団の中での育みを保障している。例えば、支援が必要な子どもが興味をもったものに対して、周囲もそれを受け止めて共に楽しさを共有するなど、支援が必要な子どももクラスの中で、決して特別な目で見られることなく関わりを保つことができている。

異年齢での関わり

年齢の低い子どもは大きい子どもの後をついて行ったり、年長児に入って遊ぼうとしたり、自然な流れの中で行っている。また大きい子どもは自分より小さい子どもたちを仲間にして、なわとびを一緒にするなど、共通の遊びが展開していくようになってくる。そのために各年齢の担当職員は、異年齢の子どもの関係作りに一役買い、交流を進めている。

評価項目2		
幼稚園と保育園の機能が一体的に提供されている		評点 (0000)
評価	標準項目	
あり	幼稚園枠で入園した子どもと保育園枠で入園した子ども同士が、区別なく教育・保育を受ける工夫がされている	
あり	登園時間、降園時間の違いなどにかかわらず、集団としての教育・保育を実施している	
あり	幼稚園利用の保護者と保育園利用の保護者の交流に努めている	
あり	保護者の就労の有無や形態にかかわらず、それぞれの機能が必要に応じて提供されている	
サブカテゴリ-5-2の講評		
主活動時間や内容の工夫		
<p>預かる対象が同じ子どもであっても、時間枠の制約から活動時間や内容に工夫が必要になってくるが、朝9時15分までの登園をお願いしており、出来る限り活動の時間が長くとれるようにしている。基本的に子ども発信の自由な活動ではあるが、行事など集団で取り組む活動においては、幼稚園枠の子どもがいる時間帯をその活動に充てるよう計画を立てて実施している。クラスの中では、幼稚園枠の子どもが帰る時間になると保育園枠の子どもは午睡の時間になる、といったように、生活の中での区切りとして、それぞれの枠の子どもたちの動きを捉えている。</p>		
様々な行事を通しての保護者の関わり		
<p>年間の中で様々な行事が予定されている。予め年間の行事予定表を配布しているので、保護者はそれに合わせて都合がつけやすい。仕事を持っているとなかなか行事（特に平日のもの）には参加しづらいが、それでも楽しみにして下さる保護者が多く、仕事を調整してボランティアとして手伝って下さる方もいる。</p>		

評価項目3		
適切な教育環境を整えている		評点 (〇〇〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	全身を使って活動することができる環境を整えている	
あり	人と関わる力が育つよう配慮している	
あり	さまざまな活動や体験をするのに適切な環境を整えている	
あり	身近な自然や社会とかがわかることができるよう配慮している	
あり	伝え合う喜びを味わったり、言葉に対する感覚が養われたりするよう配慮している	
あり	生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れられるような環境を工夫している	
あり	さまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている	
あり	日常の保育の中で、文字・言葉や数量・図形などが、遊びとして無理なく自然にとりいれている	
サブカテゴリ-5-3の講評		
年齢に応じ配慮した生活環境		
どの年齢でも子ども一人ひとりが自立した生活を送りやすいように、保育室が整えられている。保育室にある作り付けのロッカーは、3歳児は一人ひとつ、4,5歳児は二人でひとつを使う。3歳児の1年間で自分の身の回りの事を確実にできるようにすることで、その後の2年間の生活の基礎が培われている。		
生活の中での様々な学び		
いわゆる「教育」というものは、なにも机と椅子を使わなければできないものとは限らない。日常の友だちや職員との挨拶をはじめ、遊びを通した中で言葉や数、形の習得が自然にできている。また、これから生きていくために欠かせない人間関係の大切さについても、遊びや生活の中で学ぶこととなる。		
意欲をもとにした関わりの広がり・深まり		
運動会や発表会での子どもたちの取り組みは、自由な発想を活かしたものを土台に皆で話し合っていて決めているため、一人ひとりがやる気を持って自分の力を発揮しようと真剣である。決して自分の意見ばかりを押し通すのではなく、友だちの意見も聞き、結果的に皆で決めた内容を実行するために力を合わせている。3歳児クラスから自分の考えと友だちの考えを意識できるような職員の関わりが継続されていることが、最終学年になって最高の力を発揮する結果となっている。		

評価項目4		
栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している		評点 (00000)
評価	標準項目	
あり	メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
あり	子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している	
あり	食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している	
あり	快適に食事ができるように環境面でも配慮している	
あり	適温給食を心がけているか	
非該当	【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	
サブカテゴリ-5-4の講評		
適温でよりおいしい食事		
以前からの課題として、温かいものを温かい状態で食べさせるということがあった。調理室から保育室に保温状態で運ぶことができるように工夫をしたことで、より美味しく食べることができるようになってきた。		
異年齢での食事体験の実施		
日常的に異年齢の関わりがある当園では、給食の時間も年齢の枠を越えて一緒に食事をする時間を設けている。人との信頼関係を作るために「一緒に食べる」という行為がもたらす結果は大きく、より一層の関わりの深さを構築するのに役立っている。また、挨拶や食具の使い方、食べる時の姿勢などについて職員が直接指導するほか、年上の子どもの姿を見て学ぶなど、食事のマナーも身につける機会となっている。		
食物アレルギーをかかえる子どもへの対応		
間違った対応により命にかかわる危険があるということに対する認識を、職員に徹底させている。給食提供時には、専用のトレーの上に専用の器をのせ、そこには対象児の名前を明記している。専用のテーブルを使用するが、皆と一緒に食べているという気持ちを持ちながら楽しく食事ができるように、できる限りほかのテーブルに近い所に設置して、側には必ず職員が座り、安全に食べることが可能となっている。		

評価項目5		
子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている		評点 (〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している	
あり	乳幼児突然死症候群 (SIDS)、感染症等を予防する仕組みがある	
あり	医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している	
あり	保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群 (SIDS) 等に関する情報を提供し、予防に努めている	
サブカテゴリ-5-5の講評		
健康状態の把握と保護者との共有		
<p>子どもの健康面での状況を把握するために、年2回の内科健診と年1回の歯科健診、月1回の身体測定を実施している。健診の結果は一人ひとりの「健康カード」に記入しており、卒園するまでの間、園と保護者が子どもの健康状態を共有している。</p>		
看護師による健康指導		
<p>園では看護師の作成による「保健だより」を発行している。内容は子どもの健康に関する知識やその季節毎の感染症の情報・注意点などとなり、保護者に対して子どもの健康により関心を寄せてもらうためのものになっている。また、園内では子どもや職員たちに直接うがいや手洗い、歯磨きの必要性を伝えたり、正しいやり方について直接指導している。</p>		
健康情報の周知		
<p>園における子どもたちの健康情報については、最新のものを保護者に周知している。特に感染症については、集団生活であるために日常から予防注射の積極的な接種を促している。感染症の罹患状況を、玄関への掲示や保健だよりの配布、口頭にて保護者に伝えている。特に感染性胃腸炎が流行している間は、外部参加の催事は控えるなど、対応がきちんとなされている。また、午睡中は見守る職員が定期的に子どもの様子を確認している。</p>		

評価項目6		
園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている		評点 (〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	子どもが園の生活を楽しめる工夫をしている (誕生会、季節の行事など)	
あり	園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている (清潔さ、採光、換気、照明等)	
あり	お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている	
サブカテゴリ-5-6の講評		
一人ひとりの存在を大切に作る誕生会		
<p>毎月の誕生会には全園児がホールに集まってお祝いをしている。誕生児への様々なインタビューからその子どもの事を知り、カードを渡してほしい友だちからもらう。子どもたちは、友だちの存在を大切に想うと同時に、自分の誕生会の時を思い出したり楽しみにしたりしている。また、会では誕生児へのお祝いを込めた出し物が職員によって用意されており、そこに参加した子どもたちが楽しい時間を共有している。</p>		
普段の活動から切り離さない行事への取り組み		
<p>年間の中で特に大きな行事に運動会と発表会がある。年長児のクラスの子どもたちが中心となって取り組みが進んでいるわけだが、子どもたちを「活かす」ためにすべての職員が力を注いでいる。そして実践していくために日常的な自由形態の保育の中においては職員の横のつながりを密にしている。子どもたちから出される様々な意見をとりまとめてひとつのかたちに作りあげている。また、発表会が終わったあとには、例えば劇で使用した大道具・小道具などを使って自由に遊ぶ姿があり、行事を通して友だちとの関わりが深まっているのがわかる。</p>		
必要な休息時間の保障		
<p>保育時間が長くなると、どうしても疲れが出てきて、不必要なトラブルが発生しやすくなることもありうる。そこで、例え眠らなくても体を横にすることで休息ができるので、年齢に応じて午睡時間をとっている。特に年長児は、体力もついてきていることもあり、また、小学校就学も視野に入れ、時期によっては午睡時間を調整しやすくするために保育室で過ごしている。</p>		

評価項目7		
施設と家庭との交流・連携を緊密に行っている		評点 (00000)
評価	標準項目	
あり	保護者などが常時参観できる仕組みがある	
あり	便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの園での生活ぶりを家庭に紹介している	
あり	保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている	
あり	幼稚園利用の保護者、保育園利用の保護者がともに施設の行事などに参加しやすい工夫を行っている	
あり	保護者からの相談に応じる体制を整えている	
サブカテゴリ-5-7の講評		
ボランティアとして園に協力		
<p>年間を通じて園への協力を呼び掛けている。大きな行事では運動会で警備係や大道具係、トイレ誘導係、ゴールのリボン係など。また、毎月の身体測定日の手伝いやプール掃除、劇の衣装作りやそうきん縫いなど、様々な内容がある。保護者の都合に合わせた参加の仕方が選べるように内容を工夫しており、参加した方がより満足感を得られている。</p>		
「かわら版」で伝える行事速報		
<p>玄関にはその日に行った行事について「かわら版」として写真やコメントで内容を伝えている。実施したその日の様子なので、迎えに来た保護者がより新しい情報を入手しやすく子どもとの会話もはずむきっかけとなっている。</p>		
お茶を飲みながら話ませんか		
<p>保護者会とは別に、職員と一緒にお茶を飲みながら様々な話ができる時間を設けている。日頃なかなかじっくりと話をする時間がないが、その日は園長や主任も参加してざっくばらんに話している。職員はどちらかというと一人の人間として参加しており、仕事や子育てで忙しい保護者に近い立場になっており、保護者からもより親しみがあると好評である。</p>		

評価項目8		
虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている		評点 (0000)
評価	標準項目	
あり	虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	
あり	職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている	
あり	虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	
あり	子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
サブカテゴリ-5-8の講評		
気になる子どもから目をそらさない		
<p>たくさん子どもの中には気になる家庭がある。園ではひとりの子どもを保護者と園が双方から関わる大切であると考えているため、保護者の方々と必要な情報を交換しながら一緒に子育てを行っていく方針である。例えば、入園前に家庭で不規則な生活を送ってきた場合には、規則的な生活の大切さを保護者の方々に理解して頂き、少しでも実行していただけるように伝えている。</p>		
様々な保護者の状況への理解		
<p>子どもを育てながらも、様々な家庭環境を抱えた保護者の方もいる。目の前にいる子どもに対して最低限保障しなければならない生活ができていると判断した場合には、子どもの命を守るために家庭支援センターなどの関係機関に連絡している。また、園としてどのような援助ができるかを模索し、園長や主任が直接関わっている。</p>		
保護者が子どもに求めるものの理解		
<p>保護者の中には子どもに対して「いろいろな事が出来るようになってほしい」という希望を持たれている方もいる。様々な可能性を秘めた子どもであるから、そのような気持ちは理解している。物事に対して頑張る気持ちや取り組みは大切にしながらも、決して子どもに負担にならないようにしている。</p>		

評価項目9		
地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている	評点 (〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目	
あり	保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している	
あり	園の活動や行事に地域の人参加を呼びかける、地域の行事や活動に参加できるよう配慮する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
あり	地域の文化・レクリエーション施設等を利用している	
あり	他の園や福祉施設等との交流を図っている	
あり	地域の町会やボランティア団体、高齢者クラブ等の活動に子どもたちが参加できないか相談するなど、積極的な交流に向けて取り組んでいる	
あり	地域の人たちと接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている	
サブカテゴリ-5-9の講評		
商店街との交流		
<p>近くには商店街があり園が給食で使う食材を購入している。地元との関わりを大切にしており、時には子どもたちと一緒に買い物に出かけて店で目にした物を店の方と会話を交わしながら購入している。また、商店街や地域の方を招いての「給食会」も実施しており、交流を深めている。</p>		
様々な人との関わり		
<p>地域への関わりを積極的に実施し、地域の中での園の存在を理解してもらえよう努力している。高齢者施設とは年に4回交流し、日頃歌っている歌を披露したり、行事の前であればその練習を見て頂いたりしている。また、触れ合って遊ぶことで大変喜ばれている。</p>		

評価項目10		
地域のニーズに対応した子育て支援事業を行っている	評点 (00000)	
評価	標準項目	
あり	未就園児が親子で登園する日を設けている	
あり	在園児のほか地域の保護者からの教育・保育に関する相談を受け入れている	
あり	保護者のニーズに対応した預かり保育を実施している	
あり	一時保育事業を実施している	
あり	その他、多様な子育て支援事業を実施している	
サブカテゴリ-5-10の講評		
「いちご組」の楽しい活動		
<p>園庭開放や、子育て支援「いちご組」の活動が充実している。月曜日の午後、木曜日の午前・午後、また2歳未満のクラスの要望があり、それに応じて水曜日の午後に開放している。申し込みをして参加して頂いているが、毎回楽しみにして申し込みをする保護者が多く、回数多く参加する方もだんだん増えてきている。活動内容としては、リトミック・親子体操・観劇会・ハロウィン製作・野菜スタンプ・水あそび・夏まつりなど、盛りだくさんである。</p>		
一時保育で地域に貢献		
<p>予め登録した家庭については、一時保育を実施している。子どもが生活する上での情報を入手した上で、専任の職員が降園まで預かる。基本的には専用の部屋で過ごすか、時には自由形態の保育を活かして在園児と一緒に遊ぶという経験もしている。いつ来園しても決まった職員がいるので、子どもも保護者も安心して利用している。</p>		
保護者の安心・満足		
<p>園庭開放を実施していることによって、地域の方が園を訪れる機会が多い。園が企画する活動に参加をする一方それだけではなく、保護者同士の関わりを大事にしている。繰り返し参加する親子が多く、顔なじみになっており、回を重ねるごとに関係性が深まっていっている。日頃のちょっとした悩みを打ち明けたり、相談を受けたりすることで、お互いの悩みを共有する機会となっており、自分一人だけではないという安心感を抱くことができている。また、担当する職員が決まっているため、相談事がある時に声をかけやすい関係性が確立されている。</p>		

評価項目11		
小学校との連携		評点 (0000)
評価	標準項目	
あり	小学校の教育内容について理解するための取り組みを行っている	
あり	卒園した子どもの情報を得るように努めている	
あり	地域の小学校の行事への参加等、交流活動に取り組んでいる	
あり	認定こども園こども要録を適正に記入し、小学校に送っている	
サブカテゴリー5-11の講評		
小学校はこんなところ		
<p>小学校との関わりも年長児を中心に実施している。学芸会や展覧会に招いて頂き見学に出かける。劇や作品を見ることで、自分の近い将来像が何となく見えてきて楽しみになっている。毎年1年生との交流会も企画して頂き、限られた時間ではあるが一緒に遊んでいる。年が一つしか違わないのに1年生がこれ程頼もしく見えるということが年長児にとっても驚きであるが、自分たちも1年生になるとこのように立派になるのかと自分の近い将来像を描いている。また、小学校を訪問することで、卒園児の学校での様子も垣間見ることができている。</p>		
小学校への継続の重要性		
<p>卒園する子どもの情報は要録を通じて小学校に送っている。子どもの人となりや園生活の様子、学校生活で配慮すべき内容など多岐に渡る内容になっている。また、小学校とは日頃より連携を取り、交流を図っている。</p>		

6	サブカテゴリー6	
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1		
子どものプライバシー保護を徹底している		評点 (OO)
評価	標準項目	
あり	子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	
あり	子どもの羞恥心に配慮した支援をしている	
評価項目2		
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点 (OOO)
評価	標準項目	
あり	日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	
あり	子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している	
あり	子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	
評価項目3		
障害児を受け入れるにあたり、保育内容の配慮を行っている		評点 (OOO)
評価	標準項目	
あり	医療機関や専門機関と連携して、相談・指導・助言を得る体制がある	
あり	障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができている	
あり	障害児と障害のない子どもとの関わりに配慮している	
サブカテゴリー6の講評		
ホームページの写真使用など同意を得ている		
個人情報の保護については、「入園のしおり」に情報の管理として記載し、外部に漏らさず厳重に管理することを明示している。また、ホームページなどへの写真掲載は、クラスごとの保護者会等で説明し、希望しない場合は掲載しないことを伝えている。そのほか、プール使用時は目隠しのため簾を設置し、トイレ入り口にカーテンをつけるなど、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮している。		
虐待については早期発見の研修を受講している		
子どもの権利を守ることについては、全職員に配布している「職員の心得」の中で明示している。日々の保育では、園長、主任が各クラスを巡回し、職員の言動に注意を払っている。虐待については、区の研修に全職員が交代で参加し、早期発見について学習している。また、園は3歳児からの保育であり、ほとんどがトイレは自立しているが、まだオムツを使用しているケースもあり、保護者の考え方に沿った対応をしている。		
各機関と連携し、統合保育を実践している		
障害児の統合保育については「入園のしおり」に明記している。職員は区の総合福祉センターや、発達障害相談・療育センター「げんぎ」などと連携し、障害児保育を基礎から学ぶ機会を得ている。また区の担当者も来園して、保育全般について職員に指導助言している。子ども同士お互いに自然に受け入れられるように、日々の保育の中で工夫して導いている。		

こども園業務の標準化

評価項目1

手引書等を整備し、こども園業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点 (0000)

評価	標準項目
あり	手引書（基準書、手順書、マニュアル）等で、園が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
あり	提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか点検している
あり	職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している

評価項目2

サービスの向上をめざして、こども園の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点 (000)

評価	標準項目
あり	提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
あり	提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
あり	職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点 (00000)

評価	標準項目
あり	打合せや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
あり	職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
あり	職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている
あり	職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
あり	職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている

サブカテゴリー7の講評

マニュアルを整備し、手順等を明確にしている

職員には「職員の心得」を配布し、業務についてはマニュアルを整備して、手順を明示している。衛生管理、ノロウィルスなど感染対策ガイドライン、保育安全、安全防災、消防計画、事故防止などのマニュアルがあり、保育室、職員室など利用しやすい場所に保管し、必要に応じて確認できるようにしている。

学期末や年度末に見直している

懇談会やアンケートで出された保護者の要望や提案や、職員一人ひとりが改善した事例などは、月1回の職員会議で話し合い、意見交換を実施している。また、学期末や年度末に振り返りの機会を持ち、保育や園運営の基本事項や手順を見直している。その結果は次年度の指導計画や事業計画に反映する仕組みとなっている。

ヒヤリハットや育成ノートを活用し、共有化している

事故とヒヤリハットの定義を明確化し、ヒヤリハットは事故記録書式とは別にノートに記録することとした。気軽にヒヤリハットに記録し、朝礼で共有化している。また、新卒、2年目の職員については育成ノートに記入し、園長や主任がコメントを書いて、年間を通して教育している。園長は保育室を巡回指導するほか、クラス日誌を毎日確認し、付箋をつけて助言、指導をしている。

カテゴリー7	
7	情報の保護・共有
サブカテゴリー1 (7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる	
評価項目1	
こども園が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	評点 (〇〇〇)
評価	標準項目
あり	情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
あり	収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している
あり	保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
評価項目2	
個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	評点 (〇〇〇〇)
評価	標準項目
あり	園で扱っている個人情報の利用目的を明示している
あり	個人情報の保護に関する規程を明示している
あり	開示請求に対する対応方法を明示している
あり	個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている
カテゴリー7の講評	
情報の保護に取り組んでいる	
<p>情報は主にデータで保存し、サーバーを設置して集中的に管理・保護している。サーバー設置場所は施錠できる環境となっている。運営情報についてはパスワードを設定してアクセス制限をしている。保育に関する製作物は各職員が閲覧でき、参考にできるようにしている。紙ベースの情報は、古いものは箱に収納し、所定の場所で保管している。</p>	
個人情報保護規定に基づき対応している	
<p>個人情報については、保護者には「園のしおり」に明記し、職員には「職員の心得」に明記して、情報保護の姿勢を示している。個人情報を利用する場合は、その都度利用目的を明示してから使用している。また、職員会議で振り返りを行うなど、全職員で共通理解ができるように取り組んでいる。開示請求があった場合は、規定により開示するが、事務手数料など細部のルール化について、今後の検討を必要としている。</p>	

カテゴリー8	
8 カテゴリー1～7に関する活動成果	
サブカテゴリー1 (8-1)	
前年度と比べ、こども園の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分 について、改善を行い成果が上がっている <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー1：「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2：「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4：「安全管理」 	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
改善の成果	
施設長を中心とした管理職体制が着手してきた運営の改善に成果がみられる	
園では管理職間でインターネットのツール（ライン）を使って情報共有をしている。それまでは施設長の外部での会議や外出等、管理職のスケジュールによってはずれ違いの時間が多々あったが、ツールの使用により、外出等不在時でも園の様子を知ることができたり、事例に対しての意見交換等、すり合わせができ、管理職全員で共有できるようになった。便利なツールではあるが、節度を持って休日には連絡を控える等、オンオフを切り替えている。人事異動で現施設長が着任して4年が経ち、こども園としての幼児教育・保育内容や手法の改善も成果が見られ、安定した運営、職員の定着となっている。施設長のリーダーシップ、園長の経営戦略とリスクマネジメント、主任のサポートなどにより、運営体制の向上が図られている。	
サブカテゴリー2 (8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー5：「職員と組織の能力向上」 	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
改善の成果	
ヒヤリハットノートの記入で職員のリスクマネジメント意識を向上させている	
管理職だけでなく職員一人ひとりの日頃の気づきを園の安全につなげようと、園長を中心にリスクマネジメントの意識の定着に取り組んでいる。事故報告書は、園の仕様と世田谷区の仕様の2種類があったため、職員は書きづらさと業務負担があった。そのため今年度から事故報告書を世田谷区の仕様一本化し、軽微な内容はヒヤリハットノートへの記入の仕組みを作った。これにより、小さな気づきであっても、発見した職員がヒヤリハットだと感じれば記入していくことで、すぐ修正や改善をし、事例は職員会議や学年会議で取り上げて意見交換を行うことで、何が正常値で何が異常値なのかを職員が学習する機会となっている。また、学年が違うケースでも水平展開を行うことで予防につなげている。このように、フォームの使い方やノート式の導入等、仕組みの改善により、職員が取り組みやすく、定着につながっている。	
サブカテゴリー3 (8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー6：「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7：「情報の保護・共有」 	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
改善の成果	
地域のニーズに対応して、子育て支援事業の充実を図っている	
区では3歳未満の待機児童が多く、園では対策として、今年度から園庭開放や体験保育に0～1歳児のみの利用時間を設定し、安全に楽しめる環境を提供している。2歳以上の利用が可能な育児サークル「いちご組」は、20人の定員が常に満員という状態であり、利用者が増加している。登録制で2歳児以上が利用できる一時預かり保育も好評で、預かりの児童がいない日はないなど、地域の子育て親子の利用が増加している。	
サブカテゴリー4 (8-4)	
前年度と比べ、保護者の満足や意向の把握等の面で向上している	
評価項目1	
前年度（比較が困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリー3：「保護者の意向や地域・事業環境などの把握と活用」 	改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として表れている
改善の成果	
保護者の提案を取り入れ、満足度を高めるための具体策がとられている	
園では、緊急時の連絡には、あらかじめ登録してもらったアドレスに一斉メールを配信する方法をとっている。これは、保護者からの情報提供・提案をもとに検討し、導入したものである。実際に稼働すると便利なものであったが、東日本大震災のときに一斉メールが届かないケースが出て、平常時と違うことがわかった。それを受けて園はシステムを変更し、改善した。また、例えば一時保育の利用者から、大人用トイレと小人用トイレの位置の指摘と提案を受け、大人用トイレを小人用トイレに修繕したことで、子どもたちが遠いトイレまで走らずにすむようになった。これらの事例は、外部の目線による観察や気づきなどをもとに、園が具体的に解決策を打ち出し、保護者の満足と園の業務軽減や効率につながったものである。	